ゼミナール発表会

プログラム



2026年度ゼミナール発表会

日時：10月25日（日）13：00～　　場所：駿河台キャンパス　リバティタワー　13～15階

政治　国際文化　経済

		①13:00 ～ 13:45	②13:50 ～ 14:35	③14:40 ～ 15:25	④15:30 ～ 16:15
13階	1133	重田 園江 〔現代思想〕		宮本　雅也 〔政治学原論〕	
	1134	川嶋 周一 〔国際関係史〕		西村　弥 〔行政学〕	加藤 彰彦 〔比較社会学〕
	1135	小西 徳應 〔日本政治史〕	水戸部 由枝 〔西洋政治史〕	伊藤　剛 〔国際政治学〕	堀金　由美 〔比較政治論〕
14階	1144	佐久間 寛 〔連環地域文化研究〕	高峰 修 〔ジェンダー研究〕		ヨーク，ジェームズ 〔遊戯文化論〕
	1145	奥山 雅之 〔地域産業論〕	田中 茉莉子 〔国際金融論〕	鎌田　健司 〔人口学〕	大高　研道 〔協同組合学〕
	1146		廣松 悟 〔経済地理学・地域開発論〕	関根 篤史 〔統計学〕	柴田　有祐 〔経済政策〕
15階	1153	小野島 真 〔財政政策〕	八木　尚志 〔理論経済学〕	齋藤　雅己 〔経済政策〕	牛山 久仁彦 〔地方自治〕
	1154	末永 啓一郎 〔開発経済学・経済発展論〕	藤永 修一 〔国際経済政策〕	大森 正之 〔環境経済学〕	赤津　正彦 〔経済史〕
	1155	武田 巧 〔応用マクロ・ミクロ経済学〕	奥山 誠 〔経済思想〕		森下　正 〔中小企業論〕

★料金無料、閲覧自由です。
★事前予約の必要はございませんので、お気軽にお越しください。

総合案内　リバティタワー4F　政治経済学部事務室　tel 03-3296-4172

重　田　ゼミ　　研究テーマ　現代思想

【発表タイトル】

「倍速の刃～無限スクロール編～」

【発表内容】

現代を生きる私たちの生活スピードが加速している！？

４つのグループに分かれて加速する現代社会を多方面から分析しました。第１章で情報社会における速度の重要性、第２章で短期刺激のビジネス化、第３章で緊急！学生アンケートの結果、第４章で「等倍速」の価値について発表します。

加速する現代社会に一石を投じます！

【テーマ設定理由】

「ドパガキ」という言葉が流行しています。電車やベッドの中、さらには授業中にShorts 動画を無意識のうちにスクロールしている人も多いのではないでしょうか？映画やドラマ、オンライン授業の倍速視聴も当たり前になってきています。

知らず知らずのうちに SNS や Shorts 動画に依存してしまうのはなぜか？そんな身近な問いから学生に親しみやすいテーマを選びました！

【発表への意気込み】

写真や動画、図表やグラフなどのビジュアルをたくさん使って分かりやすい発表に仕上げました。みなさんの日常生活やスマホとの向き合い方を見直すきっかけになればうれしいです！ぜひ最後までご覧ください！

【発表の見どころ】

見どころ満載です！第２章では「Mrs. GREEN APPLE」や「M!LK」の楽曲を分析！第３章では学生アンケートから分析した驚きの結果を紹介します！

【フリースペース】



みなさん
こんにちはー！
そのえです！



ボウリング！



おもだゼミ
Omoda seminar

インスタはすぐ
フォロー！



川嶋周一　ゼミ　　研究テーマ　国際関係史

【発表タイトル】
『危機の三十年』と中国

【発表内容】
『危機の三十年』とは、国際政治家の細谷雄一氏が E.H.カーの『危機の二十年』に倣って冷戦後の国際秩序の変遷を描いた書物である。本発表では、冷戦後の国際秩序の危機を中国の台頭から捉えなおす。

【テーマ設定理由】
ゼミ合宿でスリランカを訪れた際、中国資本が同国の経済や社会に大きな影響を及ぼしていることを実感した。一方で、『危機の三十年』では、中国の存在感が相対的に小さく描かれているように感じた。現地で感じた中国の影響力と文献における描写との間に違いがあるのはなぜかという疑問から、本テーマを設定した。

【発表への意気込み】
国際政治と歴史を考える面白さを伝えるために、分かりやすく丁寧に説明します！ぜひ最後までご覧ください！

【発表の見どころ】
『危機の三十年』とスリランカでの経験を手掛かりに、普段は遠く感じる「国際関係」を身近な問題として考えるきっかけを提供します。中国の存在感を切り口に、国際社会はどのように変化してきたのか、一緒に考えてみてください。

【フリースペース】

ゼミ合宿の様子です！









小西 徳應　ゼミ　　研究テーマ　日本政治史

【発表タイトル】
「日本における外国人への地方自治体選挙権付与の是非」

【発表内容】
外国人への地方参政権付与には様々な議論があります。地域で暮らし税を納める住民の声を政治に反映すべきだとの主張がある一方、参政権は国民固有の権利で、国家主権に関わるとの懸念もあります。その論点と是非を、さまざまな角度から問います。

【テーマ設定理由】
本テーマは 2026 年度春学期小西徳應ゼミナールにおけるディベート大会の議題です。在留外国人が増加し共生が問われる中、地方自治の根幹に関わる本問題について、各立場の主張を正しく、深く理解する必要があると考え、設定しました。

【発表への意気込み】
私たちは、3 週間のディベート期間を通して本テーマについて学び、ゼミ生全員で理解を深めました。本発表では、その成果を分かりやすくお伝えします。この機会に、外国人と共に暮らす地域社会の姿を一緒に考えてみませんか？

【発表の見どころ】
実際にディベート大会で争点となり、激しい論争が繰り広げられた部分を中心に、賛成・反対の双方の立場から論じます。最後には私たちなりの結論もお伝えしますので、皆さんが関心を持つきっかけになれば幸いです！

【フリースペース】
私たち小西ゼミは現在、4 年生 13 名（男子 6 名、女子 7 名）、3 年生 16 名（男子 12 名、女子 4 名）で活動しています。31 年の歴史を誇る、縦横のつながりが強いゼミです。日々の活動内容は、小西ゼミ公式 Instagram でも見ることができます。皆様にお会いできるのを楽しみにしています！









@KONISHISEMI_MEIJI

佐久間　寛　ゼミ　　研究テーマ　文化人類学

【発表タイトル】
人食いの経済学

【発表内容】
・研究内容の紹介
・贈与と身体
・カニバリズムと肉体の贈与

【テーマ設定理由】
ゼミのグループワークでカニバリズム（人間が人間の肉を食べる行為）について議論した際に、いつも以上に盛り上がり、私たちは人が人を食べるという行為にこそ経済を改めて捉えるきっかけになると考えました。また、普段は自分たちと遠い存在だと考えていたカニバリズムですが、身近な文化や価値観と結びつけて考えることで、意外な共通点があるのではないかと感じました。そこで、より深く考えてみたいと思い、このテーマを設定しました。

【発表への意気込み】
普段のゼミでの議論を活かして、色々な方に興味を持ってもらえるような発表をできるように頑張ります！

【発表の見どころ】
カニバリズムという一見、自分たちとは遠いテーマについて、身近な文化や価値観と結びつけながら考え、聞いている方々にも身近な問題だと感じてもらえるような発表にしたいです！

【フリースペース】
ゼミ合宿でのグループワークの様子です！



奥山雅之　ゼミ　　研究テーマ　地域産業論

【発表タイトル】
まちと向き合い、未来を描く。

【発表内容】
『南越前町プロジェクト』より
1.　今庄そば PR・南越前町同郷会～地域のためにできる事を考え尽くす～

『福島プロジェクト』より
2.　本の文化から広がる、子どもたちの物語。～きみが主人公！リアル 4 コマまんがワークショップ～

『多摩プロジェクト』より
3. 社会課題を観光で解決に導く新たなまちづかい-星庭(八王子市)- -蝶の森(多摩市)-

【テーマ設定理由】
これまでの活動を振り返り、プロジェクトのさらなる発展の機会とするため。

【発表への意気込み】
まちへの想いや感謝の気持ちを胸に、心を込めて発表させていただきます！

【発表の見どころ】
実際にコンテストで使用した発表資料とともに、本番さながらのプレゼンテーションをお届けします。プロジェクトの魅力や意義をより体感していただける機会となっています！

【フリースペース】
いつも明るく個性豊かな 10 期です！
本日はまちの課題に向き合う真剣な姿をご覧ください！！



小野島　真　ゼミ　　研究テーマ　財政政策

【発表タイトル】
沖縄の子どもたちは幸せか

【発表内容】
沖縄の子どもの貧困について、所得だけでは捉えきれない「幸せ」の側面に着目して考察しました。現地調査やデータ分析を通して、子どものウェルビーイングという視点へと問題意識を広げ、既存の「子どもの居場所」を活用した沖縄版の子どもウェルビーイング拠点を提案します。

【テーマ設定理由】
ゼミの夏合宿で沖縄を訪れた際、沖縄の子どもの貧困問題や、ひとり親世帯の多さについて知ったことがきっかけです。当初は「貧困＝所得」の問題と捉え、所得を増やすことで子どもの状況を改善できると考えていました。しかし、現地での調査や対話を重ねる中で、所得だけでは子どもの幸せを捉えきれないことに気づき、テーマを「子どものウェルビーイング」へと発展させました。

【発表への意気込み】
沖縄の子どもの貧困を遠い地域の問題ではなく、自分たちの身近な問題として考えてもらえる発表にしたいです。また、私たち自身が調査を通して「所得が高いこと＝幸せ」ではないと気付いたように、聞いてくださる方にも「幸せとは何か」を改めて考えてもらいたいです。

【発表の見どころ】
最大の見どころは、現地調査をきっかけに私たち自身の問題設定が変化していく過程です。当初は「親の所得を上げることで子どもの貧困を改善する」という考えから出発しましたが、調査や議論を重ねる中で、子ども本人のウェルビーイングに目を向けるようになりました。最初から決まった結論を示すのではなく、問いを深めながら結論にたどり着いた過程にも注目してほしいです。

【フリースペース】
ゼミ生同士で相談し、先生からのフィードバックを受けながら、問いを深めてたどり着いたテーマと結論になります。その過程を通して私たちが気付いた「幸せとは何か」という問いを、聞く方にも一緒に考えていただきたいです。

末永 啓一郎 ゼミ　　研究テーマ　開発経済学

【発表タイトル】
① 南アフリカにおける電力問題と経済発展への影響―格差の視点から―
② 南アフリカケープタウン港における港湾効率化について

【発表内容】
① 本発表では南アフリカの電力問題を通じ、電力インフラの役割を考察します。電力普及に伴う恩恵の偏りが生む生活・経済格差に着目し、計量分析と現地調査をもとに、格差縮小と持続的発展に向けた課題や政策を検討します。
② 本発表では、2024 年に効率性が低迷したケープタウン港を対象に、強風対策の経済効果を考察します。強風に伴う果物の劣化や港湾停止・混雑が輸出のボトルネックとなっている現状を分析し、強風下における適切な港湾運営のあり方を提言します。

【テーマ設定理由】
「最後のフロンティア市場」と呼ばれるアフリカ大陸。その中でも、日本企業の拠点数が１番多い南アフリカ共和国を対象に研究を行いました。アフリカ大陸の中では、１番の経済大国として成長を遂げてきましたが、未だアパルトヘイトの名残があり、格差を表すジニ係数は世界で１番となっている現状です。その影響は、電力供給や、港湾インフラの効率化を阻害する要因となっています。今後南アフリカ共和国が発展するため、アフリカ大陸の拠点として日本企業がより進出していくために、計量分析を用いて研究をしたいと考えました。

【発表への意気込み】
ISFJ(日本政策学生会議)にて発表予定の研究内容について発表いたします。
2 月からテーマ設定から、現地調査、計量分析まですべてゼミ生自身で考え、試行錯誤して研究を進めてまいりました。集大成となる研究をお見せできるこの機会に、少しでも末永ゼミナールについて理解を深めていただけると幸いです。

【発表の見どころ】
実際にフィールドワークとして、現地を訪れた際に見た景色、インタビューで聞いた内容と、計量分析によりデータとして導き出された結果から、政策提言を行います。フィールドワークでは、訪問先の選定から、英語でのインタビューの実施まですべてゼミ生自身で行い、自ら学ぶべきことを考え、行動に移しました。計量分析は、ほとんどのゼミ生が計量分析を行うのが初めての中、約１年間かけて学びを深め、適切な分析手法の選定、結果の読み取りをできるようになりました。末永ゼミナールならではの学びの成果に注目していただけると幸いです。





武田巧ゼミ　研究テーマ　応用マクロ・ミクロ経済学

【発表タイトル】

「日本政府は早急に財政健全化に舵を切るべきか？」

【発表内容】

1. ゼミ紹介
2. 模擬ディベート
3. 質疑応答

【テーマ設定理由】

日本では、長年にわたる財政支出の拡大によって国債残高が累増し、現在では国の歳出を国債に依存する状況が続いています。さらに、近年は長期金利や政策金利が上昇しており、これまでの低金利を前提とした財政運営にも変化が生じています。そんな中、高市政権は「責任ある積極財政」を掲げ、成長投資や危機管理投資を積極的に進める方針を示すとともに、財源を明示しないままに、来年４月からは食料品に対する消費税率を１％に引き下げようとしています。

日本は今後、財政健全化を優先して歳出削減や増税などを進めるべきなのでしょうか。それとも、経済成長などに必要な財政支出を優先し、積極財政を続けるべきなのでしょうか。皆さんも考えてみてください！

【発表への意気込み】

普段のゼミ活動において私たちが取り組んでいる「ディベート」を見てもらうことで、武田巧ゼミの魅力を存分にお伝えします！

ディベートを全く知らない方でも大歓迎です！ぜひお越しください！

【発表の見どころ】

ゼミで実際に行っているものと同じ流れでディベートを行います。

ぜひ発表の様子を見て、ゼミ選びの参考にしてください！

【フリースペース】

武田巧ゼミのテーマ「グローバル化が進む中で、日本経済をいかに元気にするか」

ゼミで触れる内容は、移民・財政・金融・環境・労働等と多岐にわたります。

日本経済について、ひとりひとりが多面的な経済的視座を得ることを目指します！

＜授業の様子＞



＜ゼミ合宿の様子＞



＜Instagram＞

@TAKEDASEMI_2026

＃経済を広く学びたい人
＃英語力を鍛えたい人
＃発表力を鍛えたい人

水戸部由枝ゼミ　　研究テーマ　西洋政治史

【発表タイトル】
タブー化された性教育から権利としての性教育へ

【発表内容】
戦前から現代に至るまでの日本の性教育の歩みを踏まえ、学校教育（学習指導要領）における現状と課題を考察します。さらにスウェーデン、ドイツ、アメリカ、韓国の4カ国との国際比較を行い、これから目指すべき性教育のあり方を提示します。

【テーマ設定理由】
ジェンダーやセクシュアリティについて対話する中で、こうした問題に触れる機会のない人が多く存在することに課題意識を持ちました。性はすべての人に関わる身近なテーマであるにもかかわらず、学ぶ機会の不足から悩む人々がいます。誰もが正しい知識に基づいて自由に選択できる社会の実現に向け、義務教育における教育カリキュラムの改革が必要であると結論付けました。

【発表への意気込み】
「誰も教えてくれなかったからこそ、私たち自身も正しい知識を知りたい」という切実な思いから本テーマに取り組みました。活発な議論を通して深めた多角的な視点をお届けします。今を生きるみんなが健やかに幸せに暮らしていける未来のきっかけになれば幸いです。

【発表の見どころ】
あえて「タブー」とされがちな性教育に、大学生ならではの視点で正面から向き合った点です。身近で重要なテーマでありながら、調べて初めて知ったこともたくさんありました。ぜひ発表を聞いて、皆さんにとっても「自分ごと」として考えるきっかけにしてもらえたら嬉しいです。

【フリースペース】
水戸部ゼミは、毎週火曜日の2・3限に活動しています！
西洋政治史やジェンダーを軸としながら、今年度は特にジェンダー・セクシュアリティ分野を取り扱っています！
男子2名・女子10名が所属し、日々のゼミでは活発かつ真剣に議論を交わしています。お互いの意見を尊重し合える、充実した環境で活動しています。
※なお、今年のゼミ募集は行っておりません。

↓初回授業で上野に行きました！　　↓今年のゼミ合宿です！



高峰　ゼミ　　研究テーマ　ジェンダー研究

【発表タイトル】

未婚の若者における非婚・晩婚化要因の分析

―性別役割意識と結婚条件の男女ギャップ―

【発表内容】

国立社会保障・人口問題研究所の調査(2021)によれば、2021 年時点で「いずれ結婚したい」と考える 18～34 歳の未婚者は男女ともに 80%以上にのぼり、若者の結婚願望は依然として高い水準にある。しかし、同研究所の人口統計資料集 (2026) によれば 50 歳時の未婚割合は年々上昇を続け、昭和期には男女ともに 5%未満であった数値が 2020 年には男性約 28%、女性約 18%となっている。厚生労働省の人口動態統計月報年計の概況(2024)によると平均初婚年齢も直近 30 年で 3 歳程度の上昇傾向にあり、非婚・晩婚化が進行しているのが現状である。先行研究では、非婚・晩婚化の要因として結婚願望の低下(柴原ほか,2023)や、就業の継続と家事・育児の両立の困難(柳下・不破,2017)、男女間の結婚相手に求める条件のギャップ(鈴木・八代,2025)などが挙げられていた。その一方で、自分自身が「夫・妻としてどうありたいか」という視点からの研究はなされていないようであった。そこで、これまでに指摘されてきた要因に、自らのありたい姿という要素を加え、非婚・晩婚化との関係を明らかにする。



本研究では 18 歳から 29 歳の未婚男女 800 名(男女各 400 名)を対象に結婚観を問うオンライン調査を実施した。その結果、結婚願望を持つ人 (52.8%) と持たない人(47.2%)で意識がほぼ二分しており、人生の幸福を実現するために重要なことは「趣味(20.0%)」や「経済的安定 (17.9%)」が上位を占め、「結婚」を挙げる人はわずか 7.5%にとどまった。相手に求める個人年収では「800 万円以上」の高収入を求める人の割合は男性が 3.3%、女性が 8.8%であった。また、結婚相手の年収について「気にしない」を選択した人の割合が最も高かった(37.0%)。

さらに家庭内の役割として、家事・育児ともに自身の負担割合を 50%とする人が約 4 割(家事 39.9%、育児 40.4%)と最も多かったものの、自分が 60%以上を担うと想定する割合は女性で家事 40.0%・育児 39.8%であったが、男性では家事 23.2%・育児 16.0%にとどまった。このことから、男女ともに対等な家事・育児の負担割合を求める人が多い一方、従来の性別役割意識を残す人も多くいることが明らかとなった。

【テーマ設定理由】

若者の結婚願望が高いにもかかわらず、非婚・晩婚化が進行している背景には、これまで指摘されてきた結婚相手に求める条件だけでなく、「自分自身がどうありたいか」と「結婚相手から求められる条件」との乖離が影響しているのではないかと考えた。そこで、結婚するにあたって自らに夫・妻として求める条件(年収や家事・育児の負担割合)と結婚相手から求められている条件とのギャップに着目し、非婚・晩婚化の要因を明らかにするために本テーマを設定した。

【発表への意気込み】

自己の理想像と相手からの期待のギャップに注目し、現代の非婚・晩婚化の要因を明らかにします。聴衆の皆さんにとってもご自身の結婚観や将来のパートナー像を考えるきっかけになるような発表にします。

【発表の見どころ】

自分が夫・妻としてどうありたいのかという内面的なハードルと結婚相手から求められる条件との乖離に着目した点が見どころです。男女でそれぞれの理想像や要求にどのような違いがあるのか、アンケート調査で得られたデータを用いて検証しました。

田中　茉莉子　ゼミ　　研究テーマ　　国際金融論

【発表タイトル】
円相場の推移とその背景

【発表内容】
1. 円相場の推移と 1980 年代の日本の為替政策
2. 不胎化介入
3. 円相場と経済ファンダメンタルズ
4. 金融危機と円相場
5. 最近の円相場：アベノミクスと円安誘導
6. 最近の円相場：新型コロナ感染期とその後の急激な円安
7. 最近の円相場：現在までの円相場の動向

【テーマ設定理由】
近年円安がニュースなどで取り上げられる機会が増え、物価上昇など私たちの生活にも影響を与えています。そこで、プラザ合意以降の円相場の推移を振り返り、為替介入や金融政策、景気などが円相場にどのような影響を与えてきたのかを学びたいと考え、このテーマを設定しました。

【発表への意気込み】
始まったばかりのゼミですが、私たちがどのようなことを学んでいるのかを知ってもらえるように頑張ります。

【発表の見どころ】
図やグラフを活用するとともに、最近の円相場に関しては 3 つの期間に分けて、分かりやすく説明します。

【フリースペース】
↓貨幣博物館を見学した際の写真



廣松悟ゼミ　　研究テーマ　経済地理学/地域開発論

【発表タイトル】

草津研究 ― 観光地における持続可能な地域づくり

【発表内容】

９月に実施した群馬県草津町での合宿を通じて得られた研究結果について、観光班・経済班・地域行政班・危機管理班に分かれて発表します。観光班はブランド性、経済班は労働環境、地域行政班は交通整備、危機管理班は火山災害への避難対策をテーマとしています。

【テーマ設定理由】

草津町は、日本を代表する豊かな温泉地ですが、観光業への依存、季節による観光客の変動、人口減少や高齢化といった多くの課題を抱えています。現地でフィールドワークを行うことで、現場での実際の取り組みや課題を把握し、持続可能な地域づくりの在り方を多角的に探究したいと考え、本テーマを設定しました。

【発表への意気込み】

観光地としての表向きの華やかさだけではなく、それを支える人々の試行錯誤や課題を皆さんにお伝えしたいと思っています。草津という街を通じて、これからの観光都市が持つべき価値や将来の姿について、皆さんと一緒に思考を深める時間にしたいです。本発表にお越しいただいた方々に、地域活性化に関する新たな視点を持ち帰っていただけるよう、全力を尽くします。

【発表の見どころ】

各班の個性が出た研究内容で、見応えのある発表に仕上がっています。ゼミでの日頃の研究内容を深く知っていただける機会ですので、テーマに少しでも関心のある方は、ぜひ気軽に足をお運びください。

【フリースペース】

ぜひ聞きに来てください～!
＼ お待ちしています(o^―^o) ／



公式インスタグラム

@HIROMAT_ZEMI2026

八木　　ゼミ　　研究テーマ　理論経済学

【発表タイトル】
産業連関表を用いたアジアNIESと日本の産業構造分析～2000年から現在への変遷

【発表内容】
2000年から現在までの日本とアジアNIES（韓国・台湾・香港・シンガポール）の産業構造の変化を、産業連関表を使って比較します。各国・地域でどの産業が成長し、どの産業の割合が小さくなったのかを調べ、それぞれの特徴や違いを明らかにします。

【テーマ設定理由】
日本とアジアNIESは、私たちにとって身近で、経済的にもつながりの深い国や地域です。しかし、それぞれの国や地域でどのような産業が発展し、経済を支えてきたのかについては、あまり詳しく知りませんでした。そこで、2000年から現在までの産業の移り変わりを比較することで、身近なアジアの経済がどのように発展してきたのかを知りたいと考え、このテーマを設定しました。

【発表への意気込み】
産業連関表を使った分析は難しい部分もあると思いますが、データを一つひとつ確認しながら、それぞれの国や地域の特徴を理解していきたいです。また、調べた内容を自分たちでもしっかり理解し、聞いている人にも分かりやすく伝えられるようにしたいです。

【発表の見どころ】
日本とアジアNIESの産業構造が、この20年ほどでどのように変化したのかを比較する点です。特に、国や地域によって成長した産業にどのような違いがあるのかに注目してほしいです。

藤永　　ゼミ　　研究テーマ　円安

【発表タイトル】
現在進行中の円安に対して政府・日銀はどう対応すべきか
-為替変動のメカニズムと歴史的背景から考える-

【発表内容】
「現在進行中の円安に対して政府・日銀はどう対応すべきか」をテーマに発表します。為替レートが決まる仕組みや戦後の為替の歴史を整理し、円安の要因と家計・企業への影響を分析します。そのうえで、急激な円安を抑える政策と、負担の大きい人や企業への支援を考えます。

【テーマ設定理由】
食料品の値上がりや海外旅行の費用など、円安と私たちの生活とのつながりに関心を持ったことがきっかけです。「なぜ円安が進むのか」「誰にどのような影響があるのか」という疑問を出発点に、円安の背景を理解し、必要な対応を考えたいと思い、このテーマを設定しました。

【発表への意気込み】
【発表への意気込み】
為替は難しく感じられがちなテーマですが、身近な例やグラフを使い、初めて学ぶ方にも分かりやすく伝えたいと考えています。ゼミで学んだことを生かし、皆さんが経済ニュースを自分の生活と結び付けて考えるきっかけとなる発表を目指します。

【発表の見どころ】
円安のメリットとデメリットを比較し、誰が恩恵を受け、誰に負担が集中するのかに注目する点です。歴史やデータを踏まえながら、「急激な円安を抑えること」と「負担の大きい人や企業を支えること」の両面から、具体的な対応を提案します。

【フリースペース】
「円安になると、私たちの暮らしはどう変わる？」そんな身近な疑問から、一緒に考えてみませんか。発表を通じて、普段目にする経済ニュースを少し身近に感じていただけたら嬉しいです。少しでも興味のある方は、ぜひ気軽にお越しください。皆さんのご参加をお待ちしています！





奥山誠　ゼミ　研究テーマ　経済思想

【発表タイトル】

現代日本における投資低迷の問題　～ケインズ理論から政策提言を導く～

【発表内容】

現代日本において投資の伸びが低迷しているという問題意識のもと、ケインズ理論の視点からその要因を考察し、解決に向けた政策提言を行います。ケインズが提唱した美人投票やアニマルスピリッツなどの概念について解説しつつ、現代日本の問題と結び付けて考察していきます。

【テーマ設定理由】

現在の日本で投資の伸びが低迷していることに関心を持ち、その要因と解決策を経済思想の観点から考察したいと考え、このテーマを設定しました。

【発表への意気込み】

分かりやすく説明できるよう、スライド作りから試行錯誤し、準備を進めてきました。経済思想について知識がない人にも理解してもらえるよう、現実の問題と結び付けながら説明しています。当日、ぜひ教室まで足を運んでください！

【発表の見どころ】

過去の理論を用いて現在の問題を捉え直し、解決策を導くという経済思想の醍醐味が詰まっています。これまで経済思想に触れたことがない人にも、ぜひこれを機に経済思想に興味を持ってもらえればうれしいです！

【フリースペース】



合宿地・宮島での集合写真



合宿での勉強会の様子

西村　弥　ゼミ　　研究テーマ　行政学

【発表タイトル】

埼玉県川島町との共同研究
～町を守り、人々が憩う拠点づくり～

【発表内容】

西村ゼミでは埼玉県川島町と共同研究に取り組んでいます！春学期には実際に川島町を訪れ、視察調査とインタビュー調査を行いました。発表では実際に現地を訪れたからこそ分かったことを中心に春学期におけるゼミの活動について紹介します！

【テーマ設定理由】

近年、自然災害が激甚化しており、地域の安全を守るために、防災・減災に取り組むことが地方自治体にとって重要になっています。特に埼玉県川島町では、河川に囲まれた地域特性から、水害への対策が大きな課題となっています。そこで私たちは、町内にある土地を水害から守る場所としてだけでなく、町を盛り上げる場所としても活用できないかと思い、このテーマを設定しました。

【発表への意気込み】

春学期における西村ゼミの活動成果を、川島町について全く知らない方向けに分かりやすく説明します！発表に向けてゼミ生一同、一生懸命準備したので、西村ゼミに少しでも興味を持っていただけたら嬉しいです！

【発表の見どころ】

今回の発表は、副町長をはじめとした川島町職員の方々に向けて実際に報告したものを、一部修正し、よりパワーアップしたものとなっています！実際の活動内容について写真を交えて、分かりやすく説明するので、西村ゼミに少しでも興味がある方はぜひ気軽にご参加ください！

【フリースペース】

今年度の夏合宿は岐阜県と愛知県に行きました！
学ぶ時も楽しむ時も常に全力でメリハリを大事に活動しています！



伊藤剛　　ゼミ　　研究テーマ　　国際政治学

【発表タイトル】
中国の国際戦略と日本の安全保障

【発表内容】
中国が現在掲げている国際戦略が日本に与える影響を、安全保障の観点から分析します。

【テーマ設定理由】
中国が急速な軍拡を進める今、日本がそれにどう対応できるのか、といった疑問が多くみられます。そこで改めて、中国の目的は何なのかということを理解することで、日本の安全保障についての深い考察が得られるのではないかと考えました。

【発表への意気込み】
複雑な内容も、できるだけ分かりやすく説明できたらなと思います！またこの発表を通して、国際政治を学ぶことの素晴らしさを少しでも感じていただけたらなと思います！

【発表の見どころ】
ニュースでもよく取り上げられている、日本の安全保障についての理解を深め、中国もとい東アジアの国際政治が少しでも理解できる内容となっています！
国内政治は国際政治と相互作用しているので、国際政治を知ることは国内政治を知ることにも繋がります！

【フリースペース】
皆さんのご参加をお待ちしております！

夏合宿 in マレーシア



ゼミ公式インスタグラム

@GO_26MEIJI

鎌田健司　ゼミ　　研究テーマ　人口学

【発表タイトル】
A 班：【衝撃】日本のある地域で人口激減！？一体なぜ？
B 班：出生率が回復するには！？
C 班：群馬県「見える化」分析！！

【発表内容】
A 班：2050 年の将来推計において、とある地域の人口減少に注目し様々な観点から要因を分析しました！
B 班：合計特殊出生率の危機的状況が続く一方、ある期間では出生率が一時的に上昇していました。この期間における要因を分析しました。
C 班：群馬県内の市町村ごとに子供の生まれやすさにどんな違いがあるかを「結婚している人の割合や年齢」、「地域の経済状況」などから分析し、特徴をまとめました。

【テーマ設定理由】
A 班：全国の消滅メッシュのデータを比較した時に「ある地域」が特徴的で面白そうだったから。
B 班：出生率が上昇した背景に関心を持ったため。
C 班：班員に群馬県出身の人がいるから。

【発表への意気込み】
慣れないながらも全ての班が様々な手法でデータ分析を行い、長い間準備してきました。皆さんにデータ分析や人口学の面白さが伝わるように頑張ります！！

【発表の見どころ】
各班のメンバーが協力して行ったデータ収集やその分析結果が見どころです！

【フリースペース】



↑3 年生と先生の集合写真



↑ゼミ合宿の様子

ゼミ試の情報、ゼミ生紹介
日常の様子はインスタで！

©KAMATASEMINAR.2026

関根篤史　ゼミ　　研究テーマ　　統計学

【発表タイトル】
（1 班）日本の租税変更が GDP に与える影響―ナラティブアプローチ―
（2 班）日本における食料・エネルギー価格及び為替レートの変化に対する二次的波及効果の有無とその持続性

【発表内容】
（1 班）日本の消費税率引上げが実質 GDP に与える影響について、ナラティブ・アプローチを用いて税制変更の外生性を識別し、時系列モデルによる実証分析を行います。特に、消費税引き上げによる経済への影響について検証します。
（2 班）食料・エネルギー価格上昇が他の財・サービス価格へ波及する二次的波及効果に着目し、為替レートや賃金の影響も考慮しながら、物価上昇の波及経路とその持続性を明らかにします。

【テーマ設定理由】
（1 班）日本では、財政健全化や社会保障財源の確保を目的として、消費税率の引上げが行われてきました。そこで、増税が日本経済に与える影響に関心を持ち、消費税率の引上げが GDP に与える影響について明らかにしたいと考えました。
（2 班）近年の日本では、物価高が大きな関心を集めています。こうした商品価格の上昇が一時的なものか、それとも賃金などを通じて他の財・サービス価格にまで波及するのかは、経済政策を判断するうえで重要です。そこで本研究では、為替レートの影響も考慮し、物価上昇の二次的波及効果の有無とその持続性を明らかにしたいと考えました。

【発表への意気込み】
関根ゼミでは複雑なテーマの研究を行う中で、単純で簡潔な分析を意識しています。今回の発表でも、わかりやすくお伝えできるよう頑張ります。

【発表の見どころ】
複雑な内容は図・グラフを用いて、直感的に伝えられるよう心がけています。

【フリースペース】
今年度は、毎年恒例で行っている夏合宿に加え、春にも山中湖セミナーハウスで合宿を行いました！
本ゼミナールの Instagram では、活動報告やゼミ試に関する情報を発信しておりますので、ぜひご覧ください



@SEKINE_ATSUSHI_SEMINAR

齋藤雅己ゼミ　　研究テーマ 経済政策

【発表タイトル】

① 「女性の正規雇用促進による男女賃金格差の縮小」
② 「今日の物価変動に対する日銀の金融政策評価」
③ 「若年層における住居費軽減支援 ～資産形成余力の形成～」

【発表内容】

① 女性の非正規雇用から正規雇用への移行を妨げる要因と現行政策の課題の分析、男女間賃金格差を縮小するための政策提言
② 現在と過去の日本銀行の政策と動向、異次元緩和の経済的分析、海外との比較をもとに 5 年間の指摘と政策提言
③ 資産形成の重要性、日本の 20～40 代の家計を中心に、資産と負債の現状分析、住宅費、特に賃貸の費用負担を軽減する政策提言

【テーマ設定理由】

① 近年、日本では女性の就業率が上昇し、共働き世帯が一般的になる一方、**男女間の賃金格差**は依然として残されています。私たちは男女 2 人ずつのグループであり、全員が就職を予定しています。現在は同じ大学で学び、能力に大きな差がない私たちであっても、将来的に性別によって賃金やキャリアに差が生じる可能性があることを知り、**日本の労働構造**に疑問を持ったことから、**男女間賃金格差**について研究したいと考えました。
② 近年、日本ではエネルギー価格の上昇や円安の進行を背景として**物価上昇率**が高まりました。一方で、日本銀行は長らく**金融緩和政策を維持**し、欧米諸国と比較して慎重な金融引き締めを行ってきました。特にコロナショック後では、FRB は政策金利を短期間で引き上げ、インフレを抑制したが、日銀は**緩和的状況を維持しました**。しかし、**実質賃金の低迷**や**家計負担の増大**、日米金利差による円安が続いていることから、これらの政策が物価変動に対してどの程度有効であったのかについては検証の余地があります。こうした問題意識から、本研究では海外との比較も踏まえながら、日本の金融政策の特徴と、物価変動への対応の妥当性について考察します。
③ 近年、インフレにより現預金の価値が下がっているが、日本において現預金に金融資産が偏っています。そのため、**資産形成**を行う必要があるが、**資金余力**がありません。様々なライフイベントがあり、資産形成をしていく必要のある 30～40 代での資金余力を生み出すために、20 代で大きな負担となる**住宅費（特に賃貸費）**を軽減する必要があると考え、研究テーマを設定しました。

【発表への意気込み】 各チームとも、現実経済において重要度が高いと考えられるテーマを選び、研究を進めてきました！2 年生にもわかりやすく伝え，面白いと思ってもらえるように頑張ります！

【発表の見どころ】 **幅広いテーマについて研究することができる**のが**齋藤ゼミ（経済政策）**の特徴です。各チームがテーマ・現実経済において課題をどのように捉え、分析を行い、課題解決のためにどのような**政策提言**を行うのか、ご注目ください！



【フリースペース】

齋藤ゼミでは、毎年 12 月に 2・3・4 年生合同で新歓合宿を行っています！現実経済の課題を分析し、政策提言を行う**「経済政策」**に興味がある方、お待ちしています！

大森正之　ゼミ　　研究テーマ　　環境経済学

【発表タイトル】

① 日本の有機農業は 25 by 50 を実現できるのか
② 都市の集合住宅でエコ改修を普及させるために
③ 国際プラスチック条約の上流規制に関する課題と展望

【発表内容】

① 有機農業の推進に関する政府目標の実現可能性を検討します。
② 都市のマンションにおいて脱炭素化のために、エコ改修を普及させるための政策を提言します。
③ 国際プラスチック条約の課題点を整理し、プラスチック規制へ向けた政策を提言します。

【テーマ設定理由】

① 脱炭素や環境保全に資する有機農業の価値に着目し、その普及を目指すため。
② 東京都は集合住宅の割合が高く、また、全体のほとんどが既存住宅であり、その脱炭素化がカーボンニュートラル達成に不可欠であるため。
③ 深刻化するプラスチック問題の根本的な解決には、上流段階からの国際的な規制が必要だと考えたため。

【発表への意気込み】

① 有機農業は、健康だけでなく「環境」にも良いのだということを伝えたいです。
② エコ改修を普及させるための条件や政策提言を分かりやすく伝えます。
③ プラスチック問題の現状や国際的な議論、そして政策提言を通して、今後のプラスチック問題について一緒に考えていただけるような発表を目指します。

【発表の見どころ】

① 学校給食等の公共調達や認証制度見直し等、有機農業拡大の具体策を提言します。
② 分譲マンションと賃貸専用マンションの違いに着目した提言に注目してください。
③ 生産段階から廃棄・リサイクルまで、幅広い視点からプラスチック問題を捉えた政策提言に注目してください。

【フリースペース】

よろしくお願いいたします。



加藤彰彦　ゼミ　　研究テーマ　比較社会学

【発表タイトル】
出雲から考える地域づくり
～地域を支える担い手と仕組み～

【発表内容】
島根県出雲市地域の 11 事業所を訪問し、地域づくりの現場を調査した。NPO、民間企業、行政など、それぞれ異なる立場の取り組みを比較しながら、地域でどのような人や組織が活動し、それを企業や行政が支えているのかを考察する。

【テーマ設定理由】
ゼミ生に出雲出身者がいたことに加え、出雲大社という大きな観光資源を持つ出雲地域の地域づくりに関心を持ったから。特に、行政と民間がどのように連携し、それぞれの強みを生かして地域づくりを進めているのかに着目し、地域を支える担い手と仕組みについて学ぶためにこのテーマを設定した。

【発表への意気込み】
普段は和気あいあいとしたゼミですが、フィールドワークや研究にはとことん貪欲に取り組んでいます。ゼミ生１５人それぞれの興味や視点を持ち寄り、議論を重ねて研究をまとめました。加藤ゼミならではの学びと、比較社会学のおもしろさを伝えられる発表を目指します！

【発表の見どころ】
最大の見どころは、11 事業所を実際に訪問したからこそ見えてきた「地域づくりの担い手たち」です。さまざまな立場によって異なる役割に注目してください！最後には、それらに共通していた「人と人とのつながり」から、地域づくりに必要なものを考えます。

【フリースペース】











堀金　由美　　ゼミ　　研究テーマ　現代アジア政治経済

【発表タイトル】
シンガポール・マレーシア・インドネシア・ベトナム各四か国におけるこれまでの被植民地支配とその現代への影響を比較する。

【発表内容】
上記各四か国において、植民支配での注目すべき、そして比較されるべき点およびその根底が、現代の各国の現状にどのように影響を与えてきたのか。
植民地となるうえでの土地、人民の価値、宗教、縦および横の政治的つながりといった点について考察する。

【テーマ設定理由】
歴史を学び、未来に伝える。
事実として私たちが理解しておかなければならないアジアのこれまでの変動及び未来に見出すことのできる国際交流、国際政治を考える。
私たちが普段目にするアジア各国の政治や社会、文化には、過去の歴史が深く関係している。本研究では、植民地支配という共通の視点から４か国を比較し、現在の国の姿がどのような過程を経て形成されてきたのかを考える。国ごとの歴史を個別に学ぶだけでなく、比較することで初めて見えてくる共通点や違いにも注目し、過去を振り返ることを通じて、現代アジアへの理解を深め、歴史から得られる教訓を未来へとつなげることを目指す。

【発表への意気込み】
根底として現在に残る、あるいは昇華してしまった植民地支配の面影に、複数の視点及びそこから新たな視点を生み出しながらアプローチしていきます。そのうえでこれまでの植民地体制に潜在してきた制度、感情、支配する側、される側双方の意図などに着目した意見を展開したいです。

【発表の見どころ】
シンガポール・マレーシア・インドネシア・ベトナムの４か国を比較し、それぞれの植民地支配の特徴と現代への影響を考察します。植民地時代に求められた土地や資源、労働力、宗教や民族の関係、政治的なつながりに注目することで、各国が異なる発展を遂げた背景を明らかにします。共通する歴史を持ちながらも、現在の政治体制や社会構造に違いが生まれたのはなぜか。歴史と現代を結び付け、４か国の共通点と相違点からアジア社会の成り立ちを読み解く点が見どころです。

【フリースペース】
私たちが普段目にするアジア各国の政治や社会、文化には、過去の歴史が深く関係しています。本研究では、植民地支配という共通の視点から４か国を比較し、現在の国の姿がどのような過程を経て形成されてきたのかを考えます。国ごとの歴史を個別に学ぶだけでなく、比較することで初めて見えてくる共通点や違いにも注目します。過去を振り返ることを通じて、現代アジアへの理解を深め、歴史から得られる教訓を未来へとつなげることを目指します。

ヨークゼミ　　研究テーマ：遊戯文化論

【発表タイトル】
ゲームをつくって、学びを届ける！

【発表内容】
当ゼミでは、ゲームデザインを通じて社会貢献を目指す「教育ゲーム」を制作しています。今回発表では前期の活動も、現在行われている後期のプロジェクトも紹介します。ゼミ生が2スタジオに分かれ、企画・制作から宣伝まで一体で実施。チーム内テストや他大学との交流を経て改善を重ね、第10週にはプロのゲーム会社「株式会社Blaze Games」へプレイテストとピッチ（プレゼンテーション）を行います。さらに、学生は制作したゲームを卒業研究の一環として活用し、教育ツールとして効果的に機能したかを検証するためのデータ収集・分析も行います。

【発表への意気込み】
9週間という限られた期間の中でチームで協力し、アイデアを完成度の高いゲームへと作り上げます。
他大学の学生やプロから得られるフィードバックを糧に、初めて遊ぶ人にも魅力が明確に伝わる作品を目指します。

【発表の見どころ】
ゲーム制作の専門家ではない学生が、自分たちのアイデアをゲームにし、実際に人に遊んでもらうまでのプロセスが見どころです。試作やプレイテスト、プロからのフィードバックを通じて、ゲームはどのように改善されていくのでしょうか。ゲームを「遊ぶ側」から「つくる側」へと視点を変えることで見えてくる、ゲームデザインの可能性を紹介します。

【フリースペース】


授業風景：ゲーム制作中


ゲームオベントで出店した様子

@YORK_MEIJI
公式のインスタ

大高　研道　ゼミ　　研究テーマ　協同組合学

【発表タイトル】
都市型コミュニティにおける協同の可能性
ー豊洲地域の自治会と労働者協同組合の取り組みー

【発表内容】
　今年度実施したフィールド調査をもとに、研究対象である「労働者協同組合」（ワーカーズコープ）が、豊洲のような近代的な都市型コミュニティにおいてどのような役割を担っているかを明らかにする。

【テーマ設定理由】
　地域との関わりの希薄化は、大学生である私たちにとっても身近な問題として実感している。ゼミ生の中には自治会に加入していない家庭もあり、近隣住民と交流する機会がほとんどない者もいた。また、幼少期と比較して、マンション内での交流イベントが減少したと感じる学生も多い。こうした実体験をもとに、地域コミュニティの現状や自治会の役割、そして地域とのつながりを支える主体について関心を抱き、このテーマ設定に至った。

【発表への意気込み】
　協同組合について既にご存じの方も、あまり知らない方にも、私たちの研究を通じて協同組合を知っていただき、少しでも興味を持っていただければ嬉しいです。豊洲という一地域の事例から、お住まいの地域やその課題、みなさんが抱えるモヤモヤについて考えてみる契機となれば幸いです。

【発表の見どころ】
　今年度の研究の集大成として、全員で力を合わせてスライドを作成し、内容を練ってきました。私たち大高ゼミは、対話と発表に重きを置いているゼミです。1年間発表を重ねて培ってきた発表のスキル、ゼミ生それぞれが抱いている想いや学びをお伝えしたいと思っています。
　ただ単にパワーポイントに沿って堅苦しく研究内容をお伝えするだけでなく、大高ゼミの雰囲気や空気感なども感じていただき、楽しみながら聞いていただけるようにゼミ生一同頑張ります！

【フリースペース】



↑　フィールド調査にて、豊洲のワーカーズコープの方との写真
和気藹々とした雰囲気でした



↑　9期生最初の集合写真
「協同」を大切に、皆で助け合いながら研究しています

柴田　有祐　ゼミ　　研究テーマ　経済政策

【発表タイトル】
外国人観光客の増加は地域経済活性化に貢献しているのか？～岐阜県を事例に～

【発表内容】
訪日外国人観光客は過去最高の水準で推移していますが、その増加が地域経済にどれほどの効果をもたらしているのかは、イメージで語られることが少なくありません。そこで本発表では岐阜県を対象に、2024 年の訪日外国人観光客と日本人国内観光客の観光消費額を比較し、産業連関表を用いて経済波及効果を推計します。さらに、外国人観光客を呼び込むための岐阜県や県内自治体の取り組みについても考察します。

【テーマ設定理由】
「インバウンドは地域活性化につながる」という主張はよく耳にしますが、それをデータで示した議論は意外と多くありません。そこで、定性的な議論ではなく数字で効果を確かめたいと考え、高山や白川郷などを抱え外国人観光客に人気の岐阜県に着目して、このテーマを設定しました。

【発表への意気込み】
産業連関表は難しそうな印象があるかもしれませんが、図表を使って「お金が地域のどこにどれだけ回るのか」をわかりやすくお伝えします。インバウンドを身近な問題として考えるきっかけにしていただければ嬉しいです！

【発表の見どころ】
外国人観光客 1 人当たりの消費額が日本人観光客とどれほど違うのか、そして外国人観光客を増やした場合に、現在の産業構造の下で岐阜県にどれだけの追加的な生産が生まれるのかを試算します。ぜひ数字に注目してください！

【フリースペース】

皆さんとお会いできることを楽しみにしています！

公式インスタグラム



@SHIBATA_SEMINARRR

牛山久仁彦ゼミ　研究テーマ　地方自治

【発表タイトル】

『「子育てしやすいまち」はどう作られるか～自治体別子育て支援策の比較研究～』

【発表内容】

日本の少子化や人口減少が進む一方で、人口や出生率が増加傾向にある自治体も存在していることに着目し、人口や財政状況などが異なるいくつかの自治体における独自の子育て支援政策を紹介。そして、それらの分析・比較を行い、共通点や独自の取り組みの成果や課題を整理し、他の自治体にも応用可能であるか、また、これからの日本において効果的な政策や方法について検討、提言を行います。

【テーマ設定理由】

現在の日本では少子化や人口減少が深刻な社会問題となっています。しかし、そのような状況においても出生率や人口が増加している自治体もあるということに気づき、それらの自治体はどのような支援や政策を行っているのか、また、自治体の経済力、地域性などの違いにより、「ある自治体で有効な政策が他でも実現可能なのか」という疑問点から本テーマを設定しました。

【発表への意気込み】

多様な自治体の事例比較を通じて、単なる政策の紹介にとどまらず、「他の地域でも応用・再現可能な支援の仕組みとは何か」という実践的な視点から切り込み、これからの少子化対策や自治体施策のあり方について、皆さんと考えを深められる発表にいたします！

【発表の見どころ】

様々な自治体の事例を挙げて発表を行います。事例を通して、「どのような取り組みが子育て世帯にとって効果的なのか」「自治体規模の違いによってどのような違いがあるのか」などを、私たちなりに考察した成果を発表いたします。
皆さんもぜひ自分の住んでいる自治体や地元の自治体などと比較して聴いていただければ幸いです。

【フリースペース】

私たち牛山ゼミは牛山久仁彦先生とご指導のもと、男子 12 名、女子 7 名の計 19 名で楽しく、個性を尊重しつつもメリハリのある活動を行っています。
今年の夏は立正大・長野県立大と合同で韓国での合宿を行い、本研究を発表しました。
自治体への深い関心を持つゼミ同士が、多岐にわたるテーマについて様々な意見を交わすことで、一つの事象を多角的に見る力が身につきます。「やる時はやる」という共同の姿勢で、調査・研究に取り組む私たちの活動の成果をぜひお確かめください！





赤津　ゼミ　　研究テーマ　経済史

【発表タイトル】
「北陸の小京都」金沢発展の歴史的背景―経済（産業）・インフラ・住環境・文化―

【発表内容】
各種の都市評価ランキングにおいて常に上位を維持し続けている石川県金沢市。「北陸の小京都」金沢はいかにして発展し、魅力のある街となったのか？その要因・背景を、「歴史・地理を活かした経済（産業）発展」、「優れた交通インフラ」、「良好な住環境」、「豊かな文化」、という四つの側面から考察する。

【テーマ設定理由】
北陸随一の人気都市である金沢がこれまでどのように発展してきたのかに関心を持ったため。

【発表への意気込み】
本やネットで情報を集めるだけでなく夏休み中に実際に金沢に行って実踏調査までして発表を作成しました！

【発表の見どころ】
実踏調査で撮った写真。あといかにテンポよく発表できるか。

【フリースペース】

ぜひ見に来てください(´；ω；`)



森下正　ゼミ　　研究テーマ　　中小企業論

【発表タイトル】
中小企業や地域産業に関する卒論の中間報告

【発表内容】
日本の中小企業が直面している課題に対する解決策の提示
（パワーポイントを用いた発表）

【テーマ設定理由】
ゼミナールの研究テーマである中小企業の実態やそれを取り巻く環境についての研究を知ってほしいと考えたため。

【発表への意気込み】
私たちのゼミナールで行っている中小企業に関する研究や学習内容について、理解しやすい形でお伝えできるように頑張ります！

【発表の見どころ】
中小企業の現在の状況や課題、これからの持続的発展についてなどがわかります。
4 年生の発表では、企業城下町と産業集積について深堀していきます。

【フリースペース】
私たちのゼミナールでは中小企業へのヒアリング調査やさまざまな地域への視察調査などを行っており、企業の実態、現場の現実を直に体験できます。さらに、学問的にも中小企業を学ぶことにより、中小企業や中小企業を取り巻く経済状況について多面的に見ることができるようになります！



MORISITA_SEMINAR_ZEMISHI